

映像教育プログラム専門家養成講座

ワークショップ

高校生に映画を見せたい！

2011年9月1日(木)

広島市映像文化ライブラリーにて開催

コミュニティシネマセンターでは、2004年の映画上映ネットワーク会議(現全国コミュニティシネマ会議)で“映画教育”をテーマとして以来、継続して「子どもと映画」プログラムに取り組んできました。

今回のワークショップで、ターゲットとするのは「高校生」。

自分の劇場(映画館)は高校生にとって魅力的な場所なのか。

高校生にとって映画館は必要な場所なのか。

高校生の身になって、真剣に考えてみましょう！

内容[予定]

10:00 開会

10:00～11:00 ヨーロッパシネマからのゲストの自己紹介を兼ねた短い講演

イアン・クリスティー Ian Christie

ロンドン大学、バークベック校の映画・メディア史教授。マイケル・パウエル、エリック・プレスバーガー、マーティン・スコセッシの作品研究書や、映画発展に関する著書がある。ヨーロッパシネマ副代表。2005年よりヨーロッパシネマの「若い観客育成のためのセミナー」で、基調講演・ファシリテーターを担当。

マシアス・ホッツ Mathias Holtz

スウェーデンのアート系映画の配給会社で働いた後、Folkets Hus och Parker (FHP)の番組編成を担当。同社は、900の会員を有する組織で、213の映画館、劇場、遊園地、コミュニティセンターなどが含まれる。シネコンの出現により、映画館の寡占化が進行する中、3都市の映画館を買い上げ、本格的にデジタル化を進め、ODS(オペラ中継など)を含む番組編成を始めた。現在は、学校での上映や特別プログラムにも取り組んでおり、09年ヨーロッパシネマから起業家賞を贈られた。

11:10～12:30 ワークショップⅠ 自館分析

高校生になって、自分の劇場がどんな場所なのか、若者にとって魅力的な場所なのかを分析する。

[12:30～13:30 休憩]

13:30～14:30 ワークショップⅠの発表と講評

14:45～16:30 ワークショップⅡ

自分の劇場で実現できる「高校生の映画館」プログラムをつくる

16:45～18:30 ワークショップⅡの発表と講評 終了後、懇親会を予定(有料)

定員 30名 コミュニティシネマセンター会員館限定 / 申込先着順 / 参加費無料

※ 参加者には、事前に課題を提出していただきます。

主催：文化庁(平成23年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業)

制作：一般社団法人コミュニティシネマセンター/広島市映像文化ライブラリー

協力：ヨーロッパシネマ

お問い合わせは、コミュニティシネマセンター 050-3535-1573 まで

映像教育プログラム専門家養成講座
ワークショップ 高校生に映画を見せたい！

2011年9月1日(木)

参加申込書

下記にご記入の上、ファックス(03-3461-0760)にてご返信ください。

- ※ ご参加は、コミュニティシネマセンター会員(1団体2名まで)に限定いたします。
※ 定員になり次第、申込を締め切らせていただきます。

所属(ふりがな)※コミュニティシネマセンターに会員登録している団体名をお書き下さい。

所属部署・職名等

氏名(ふりがな)

住所
〒

電話番号

ファックス番号

e-mail アドレス

ホテル予約 希望する日にチェックをしてください。

アステールプラザ <http://www.cf.city.hiroshima.jp/naka-cs/> または

広島市文化交流会館 <http://www.h-bkk.jp/hall.php> のいずれかで手配します。

- 8月31日(水)
 9月1日(木)
 9月2日(金)

※ 出張旅費を、会社または組織で負担できない場合はお知らせください。
1人20,000円まで補助します。

- 負担できない
 負担できる